

校長室の窓から

「エアポート？」

ある日、私は京都駅のホームに立って列車を待っていました。舞鶴で校長の会議があり、それに出席するためです。私が乗車する予定の列車は特急「まいづる」号。遅れて迷惑をかけてはいけないので、発車の20分前くらいに着いていたように思います。

ご存じのように、特急「まいづる」が出発するのは山陰線と並びのホームです。山陰線の特急、普通列車、そして関西空港行きの特急「はるか」号が発着するホームが近くにかたまっています。私が待っているホームの後ろ側には、特急「はるか」が出発を待っていました。

「まもなく、関西空港行き特急『はるか』号が発車します。ご乗車の方はお急ぎください。」

アナウンスがホームに流れました。そして発車時刻ちょうどになりました。

ところが、列車は発車しません。車掌は列車から身体を乗り出し、後方をじっと見ています。駅員も笛を口にし、同じ方向を見ています。

「何があったのかな？」と私も同じ方向を見てみました。

列車に乗り遅れそうになった乗客が、かなり後方にまだいたのです。大きなカートを引いた外国人のグループです。あまり急いで走る様子もありません。「エアポート？」駅員がそのうちの一人に声をかけました。「イエス、イエス」「ハリーアップ！」声は大きくても、表情は笑顔です。ようやくグループが乗り込み、発車するのかなと思いきや、まだ車掌や駅員は先ほどの方向を見ています。どうやらまだ1組、列車のほうへ向かってくる人がいるのです。そして、「エアポート？」「イエス」「ハリーアップ」の繰り返しです。発車したのは定刻を3分ほど過ぎたころでした。

自分自身の常識では、発車時刻を遅らせてまで乗客を待つことなど、考えられません。「まいづる」を待っている間にいろいろなことを考えました。

(関西空港行きだし、もし乗り遅れたら飛行機にも間に合わなくなるだろうな。だからある程度待つことにしているのかもしれないな。)

(日本では、列車は全国的に見てもダイヤを乱すことなく予定通りに走ることがあたりまえの感覚だけど、外国ではそうでもないと聞くから、外国人観光客が多いこの駅では、そんなことも配慮しているのかな?)

本来は、列車を時刻通りに運行させることが望ましいのですが、駅員さんと車掌さんの笑顔の対応が、舞鶴へ向かう私を温かい気持ちにさせてくれました。

